天王寺区
町名の由来

1.味原町（あじはらちょう）

味原池の旧地であることに由来する。味原池は本来は農業用の溜池であるが、往時、この付近を古代伝承の味原郷と同一地とみなしていたことにもとづく。池は市街地として大正7年9月12日に土地会社に買い取られ、埋立造成されて宅地化された。

産湯味原池（浪花百景）

2.味原本町（あじはらほんまち）

町域の主要部が旧味原池にあたることから「本町」と付称された。

3.生玉町（いくたまちょう）

式内社「難波巫生國咲國魂神社（俗称・生國魂神社）」が所在することに由来する。生玉大明神・生玉社などの俗称が広く用いられていたことによる。

（史跡等）生國魂神社の祭神は生國魂神、咲國魂神で、大阪の土地生成の神々を祭っている。もとは上町台地の北端にあったといわれているが、後に豊臣秀吉の大坂城築城の時に現在地に移された。以後広大な社域と壮麗な建造物を誇り、維新後も官幣大社となる。明治45年の南の大火、昭和20年の戦災で焼失し、現在の建物は同31年に再建された。

4.生玉寺町（いくたまてらまち）

生國魂神社の表を南北に通じる道路沿いに寺院が建ち並んでおり、そこが町域に当たっていることから「寺町」と付称された。

（史跡等）竹田出雲は浄瑠璃の作者として別号千前軒ともいい、竹田家は大阪道頓堀操り芝居の座元で、代々竹田近江、竹田出雲を称していた。出雲は近松門左衛門の指導を受け、父のあとをつぎ約30年間、座元兼作者として活躍、並木千柳、三好松洛と組んで「菅原伝授手習鑑」「義経千本桜」「仮名手本忠臣蔵」と浄瑠璃史上に不朽の傑作を残した。墓所は青蓮寺（生玉寺町）にあり、同寺には川柳の岸本水府の墓所もある。

生國魂神社

5.生玉前町（いくたままえまち）

生國魂神社の正面（東側）の前面にひろがる町域を占めていることから「前町」と付称された。

6.石ヶ辻町（いしがつじちょう）

明治初頭、天王寺村大字天王寺の一部で石ヶ辻と野中を小字名にもつ地域だが、『摂津名所図会大成』（巻の四）に記されているように野中には野中地蔵堂があって祈願人が墨汁を注ぐとご利益が得られるという立像の石仏が門前にあった。この石仏の辻にちなんで石ヶ辻の字名が成立したと考えられる。

7.上汐（うえしお）

菅原道真が左遷される途中、潮待天神（潮待寺）において引潮を待ったという故事に由来する。冠称の「上」は南船場に所在した「塩町」との混合を避けるために冠したことによる。

8.上之宮町（うえのみやちょう）

この地の産土神の上野（之）宮（欽明天皇社）の鎮座に由来する。欽明天皇は聖徳太子の祖父にあたる。四天王寺七宮のうちの一社であったが、大江神社に合祀された。その故事であることによる。

上宮之址の碑

9.上本町（うえほんまち）

上町の高台を大阪城追手馬場先から南へ一直線にのびる道路（町筋）に江戸時代すでに上本町の町名を付したことに由来する。馬場先から西へ一直線にのびる道路（町筋）を内本町・本町を名づけた事に対応させたものと考えられる。

10.餌差町（えさしまち）

元禄4年図（新撰増補大坂大絵図＝1691年）にすでに「ゑさし丁」の名称が付された古町名に由来する。

（史跡等）町域は、大阪冬の陣に際し、真田幸村が真田丸を築いて徳川勢を打ち破った砦の地域にあたる。

11.逢阪（おうさか）

四天王寺西門筋一心寺と安居神社との間を東西に通じる坂の名から採ったもので、「相坂」または「逢